

広島県教育委員会 小学校低学年を対象とした ICT 活用に向けての導入動画コンテンツ

「パソコンとおともだちシリーズ」

その1 「ICT 活用の意義」

情報活用能力育成に向けては、問題解決における情報活用の良さを見つけたり、情報の大切さに気付いたりすることがポイントとなる。

「調べる」、「説明する」、「一緒に考える」という授業の場面において、タブレットPCやパソコン等を使用することで、どのような特長や良い面があるのか、児童と一緒に考え、実際に端末を使用した際、情報活用の良さを具体的に振り返る。

その2 「パソコンの基本操作等①」

コンピュータの起動や終了、マウス等の操作やそれらに関する用語など、情報活用能力の中でも、主に情報技術に関する知識及び技能に関する内容である。

3つの基本操作等（「パソコンを正しくつける」、「パソコンを正しく消す」、「いろいろなことばを覚える」）が説明される。機種によって操作等が異なるので、動画を見ながら、実際に、1人1台の端末で操作等を行う。

その3 「パソコンの基本操作等②」

「その2」の続きとして、4つのレベルアップした操作等（「写真を撮る」、「絵を描く」、「文字を書く」、「それらをまた見る」）が説明される。

写真撮影などの基本操作、画像編集・ペイント系アプリケーションの操作、電子ファイルの呼び出しや保存など、低学年段階で必要な情報技術に関する知識及び技能に関する内容である。

その4 「写真撮影のルール、マナー」

情報活用能力の要素、情報モラルやセキュリティについての知識に関する内容である。

情報の大切さや情報を扱う際にルールやマナーがあることを理解し、責任をもって適切に情報を扱おうとする態度を育むために、写真を撮りたい場合、相手にどのようなことを伝えればよいのかということを考える。

その5 「正しいパソコンの扱い方」

情報活用能力として、コンピュータなどを利用するときの基本的なルールの理解、また、それらを踏まえて行動しようとする態度に関する内容である。

パソコンが壊れてしまう場面として、「おとす」、「ぶつかる」、「おさえる」、「ぬれる」、「あつくなる」ことを取り上げている。動画を止めて、それらの具体的な場面や、そうならないために気を付けることを考える。

その6 「得意なこと苦手なことを知る」

情報活用能力として、情報や情報技術を適切に使おうとする態度に関する内容である。

パソコンは、「自分で考える」と「実際に自分でやってみる」ことが苦手であるなど、人とパソコンどっちが得意かというクイズを、動画を止めて考える。